

私は、政清会を代表しまして、認第2号令和2年度野田市一般会計から認第8号令和2年度野田市下水道事業会計までの各会計の決算認定について、全てに賛成する立場で討論いたします。

はじめに、新型コロナウイルス感染症対策について、国、県からの補助事業に加えて、野田市独自の新型コロナウイルス感染症対策事業を実施されました。加えて新型コロナワクチン接種に係る準備に、迅速に取り掛かかった事は、高く評価いたします。

まず、一般会計から申し上げます。歳入につきましては、根幹となる市税において、滞納繰越分の調定額の減少等により決算額自体は減少していますが、コロナ禍の大変厳しい状況の中で、収納率が向上しており、公平な税の負担に向けた徴収対策の取組の成果が見られています。

次に、歳出につきましては、総務費では、市内2地区での交通不便地域支援事業、窓口多言語化対応事業などが開始され、市民の利便性向上が図られています。また、新型コロナウイルス感染症対策の一貫として、地域公共交通を維持するため、地域公共交通運行継続支援金の支給が実施されました。

民生費では、子ども医療費助成を拡充し、未就学児までの自己負担金の無料化が実施されるとともに、休日預かり保育事業及び特定子ども・子育て支援施設等利用支援助成が開始され、子育てしやすい環境整備に取り組みました。また、公共施設の老朽化対策として、七光台会館の大規模改修工事が実施されるとともに、継続事業として老人福祉センターの大規模改修工事にも着手されました。先に申し上げましたが、新型コロナウイルス感染症対策では、国の特別定額給付金、子育て世帯への臨時特別給付金及びひとり親世帯臨時特別給付金の支給に加えて、市独自に新生児特別定額給付金、児童手当上乗せ給付金、児童扶養手当上乗せ給付金の支給が実施されました。

衛生費では、18歳以上の全市民に拡大した健康・スポーツポイント事業を開始されたほか、新型コロナウイルス感染症対策では、市独自に医療従事者及び歯科医療従事者支援金、医療機関経営支援金等の支給、高齢者等のインフルエンザワクチン接種の無償化、指定ごみ袋の追加配布、水道基本料金2ヶ月分の全額免除等が実施されました。

商工費では新型コロナウイルス感染症対策として、市独自に飲食店等協力金、個人事業者等協力金、経営支援対策給付金等が実施され、コロナ禍の事業者への迅速な支援となりました。

土木費では、令和2年度末に営業線高架切り替えを行った、連続立体交差事業をはじめ、関連事業である野田市駅西土地地区画整理事業、愛宕駅西口駅前広場等整備事業の進捗が図られました。

消防費では、消防団分団器具置場の新築工事が実施されたほか、特殊災害時

の救助活動に活用するドローン、風水害対応救命ボート等の配備、新型コロナウイルス感染症や熱中症対策を踏まえた災害時備蓄品の整備が実施され、防災力の強化が図られたことを、評価いたします。

教育費では、教育環境の更なる向上を図るため、北部小学校の校舎内及びトイレの洋式化に係る改修工事、東部中学校の外トイレ新設工事が実施されたほか、学校施設の老朽化に伴い、二ツ塚小学校の給水設備改修工事や各小学校における雨漏り改修など、緊急性の高い施設改修工事が実施されました。また、令和元年度からの継続事業である文化センター空調設備及び給排水設備等改修事業を完了し、総合公園庭球場改修工事が実施されました。さらに、新型コロナウイルス感染症対策では、市独自に修学旅行のキャンセル料等支援補助金、修学旅行等の中止に伴う代替行事支援補助金、準要保護者への昼食費支援給付金の支給が実施されました。

このように、令和2年度一般会計歳入歳出決算は厳しい財政状況にありながらも、元気で明るい家庭を築ける野田市の実現に向けて、未来を担う子どもたちへの投資や交通不便地域対策、防災力の向上、公共施設の老朽化対策など、市民の安全安心の確保に資する事業を予定どおり実施し、さらに新型コロナウイルス感染症対策を適時適切に実施するなど、適正な予算執行であったと認められ、高く評価いたします。

また、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、次木親野井特定土地区画整理事業特別会計、後期高齢者医療特別会計、水道事業会計、下水道事業会計についても、それぞれの目的に沿った適切な予算執行であったと認められ、全ての決算認定について賛成いたします。

最後に、普通会計の経常収支比率については、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業やイベントが中止になったこと、診療控えにより医療費助成が減少したことなどから、2.6ポイント改善し93.2%となっておりますが、今回の改善は一時的なものであると思われまます。令和3年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響による、市税等のさらなる減収が見込まれる中、社会保障関係費につきましては引き続き増加が見込まれますので、気を緩めることなく、今後も、ゼロベースでの事業見直しや、新たな財源確保とともにアフターフォローを見据えた、野田市の魅力発信に全庁を挙げて取り組んでいただくことを要望いたしまして、賛成討論とさせていただきます。